

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学

長野県塩尻市広丘郷原1780

☎ (0263) 52-3100

www.mdu.ac.jp

1部60円

第6代松本歯科大学学長
初代大学院歯学独立研究科長

小澤英浩先生逝去



機能系中央実験室で研究所スタッフを指導する小澤先生（左）

国内外から注目を集める 独創的な大学院の開設に尽力

元学長・大学院歯学独立研究科長を務められた名誉教授の小澤英浩先生が、2月2日（木）にご逝去されました。歯科医学分野の硬組織研究に全力を注がれ、本学の大学院構想から設置にいたるまで、そしてその進展に尽力されました。くしくも本年は大学院設置から20年目を迎えます。小澤先生のご功績を振り返り、『Campus Today』2003年1月号に掲載された大学院設置に至る経緯と小澤先生が執筆された「夢の実現へ第一歩!」と題した文章を紹介します。



大学院構想から設置に至る経緯

小澤先生は、本学第6代学長、初代大学院歯学独立研究科長を務められ、その後は名誉教授として後進の指導にあたられた。硬組織分野における超微細構造の解析研究の第一人者であ

り、2015年春の叙勲においては、永年にわたる歯学教育ならびに基礎生命科学研究を通じて歯学・医学の発展に貢献された功績により、瑞宝中綬章を受章されている。

小澤先生は、大学院設置準備委員会委員長として、建学の理念を具現化するような、開かれた、今までのない大学院をつくらうと構想を模索された。総合歯科医学研究所を基盤として、

ソフトもハードも機構上すべて完全なオープンな形で、講座の壁をつくらないことを基本理念とした大学院の開設に尽力され、国際的な研究業績をあげる礎を築かれた。

松本歯科大学では開学以来、大学院の存在しない個別講座制に準拠した従来の大学環境で教育・研究を遂行してきた。しかし、教育者自身がさらに高度な方法の確立と新しい研究に常時触れていることが必要とされる現在、大学として優れた指導者の育成体制を維持するためにも、大学院レベルの研究組織がいかにも必要不可欠であった。このような状況下で本学は、2001年10月大学院設置準備室を設け、11月大学院設置準備委員会を発足させた。

委員会では十数回にわたる慎重な協議の結果、本学の大学院は、総合歯科医学研究所を基盤にした特色ある独立研究科として申請することで理事会の承認を得た。

普通大学院は、学部講座を基礎とするのが一般的であるが、今世紀の口腔科学と口腔保健・歯科医療の発展すべき方向を考えた場合、多くの専門分野に分かれた学部を基礎とするより、学部とは独立した横断的・学際的研究組織に基盤を置いた大学院を設置するのがより有効な方

法であるとの結論に到達した。この大学院の基本構想を受け、2002年4月には、総合歯科医学研究所を大学院の基幹組織として位置付けるべく全面的に改組し、歯科医学研究の中核をなす「硬組織疾患制御再建学部門」および「顎口腔機能制御学部門」「健康増進口腔科学部門」を新設した。

大学院設置申請は、文部科学省より大学設置・学校法人審議会へ7月18日（木）に諮問され、12月11日（水）に同審議会より答申が出される約6カ月の間審議された松本歯科大学大学院は、12月19日（木）、ここに文部科学大臣より設置認可を受けた。

かくして、松本歯科大学大学院設置認可申請書は、大学院の組織やカリキュラム、教員組織など、申請に関わる重要事項を審議し作成され、2002年6月24日（月）文部科学省に大学院設置申請

夢の実現へ第一歩!

松本歯科大学総合歯科医学研究所長
大学院設置準備委員会委員長

小澤 英浩

念願の大学院が実現した。長年にわたって切望されていた大学院であり、創立三十周年に当たる今、特色ある大学院が誕生したことは法人、教職員、学生、同窓生はじめ松本歯科大学あげての喜びである。ここに辿り着くまでの諸先輩、教職員のご努力と、創立者・名誉理事長矢ヶ崎康先生を始めとする法

人の深いご理解とご協力に心から感謝の意を表するものである。このたび設置が認められた本大学院は、従来型の学部組織に上乗せされた大学院ではなく、歯科医学にとって重要な研究領域に特化した独立研究科であり、新たに改組・拡大した総合歯科医学研究所を基盤に構築されたものである。

元来、医学・歯科学の分野における独立専攻系・独立研究科は大学院重点化へのステップとして設置されている場合が多く、歯学部・歯科大学ではかつて東京医科歯科大学歯学部が大学院重点化の拠点として独立専攻系大学院を有していたに過ぎない。

そのような観点からもこのたび松本歯科大学に設置が認められた大学院歯科学独立研究科は従来型の大学院を越えた、より

研究に特化した大学院として位置づけることができる。本大学院は、基礎・臨床の混合型大学院で、「口腔疾患制御再建学」一専攻系からなり、ここに硬組織疾患制御再建学、顎口腔機能制御学、健康増進口腔科学の3大講座が置かれている。大講座は複数の研究ユニットからなり、総ユニット数は11である。

これらの大講座、ユニットは総合歯科医学研究所の3部門、11ユニットに相当し、従来の縦割り組織を廃して、横断的な組織としてハード面でも全てオープンで研究員・学生が自由に混じり合えるよう配慮して設計されてい

る。大学院教育は実質的には研究所のこのようなシステムに基づいて行われる。もちろん、大学院教員としては学部所属の多くの教員が参加しており、設置審議会でも認められた教員総数は40人である。

〔Campus Today〕2003年1月号より



ブースに分かれた教授室で自由な議論が行われる

大学院開設当初のセミナー室（上）と講師室

小澤英浩先生を偲んで

「美は真なり、真は美なり」

その言葉に秘められた形態学の原点

2月2日（木）、小澤英浩先生は3人の愛するお嬢様らに看取られ、安らかに奥様がいらつしやる天国に旅立たれました。享年88歳でした。小澤先生はコロナ禍になってから血液の病気を発症されましたが、亡くなる直前まで朗らかにお話されていたそうです。

小澤先生のお好きな言葉「Beauty is truth, truth is beauty.」「美は真なり、真は美なり」を思い出しました。以下は小澤先生の文章です。

「この言葉は、対称性に美を求める数学の世界ではそのまま受け入れられるといわれるが、形態科学の世界でも「美は自動的に真を保障するわけではないが、その助けにはなる」ことは

「研究や趣味から謙虚さを学びなさい」 やさしい先生からの教えを胸に

小澤英浩先生との出会いは、新潟大学歯学部3年生の組織学の講義でした。午後1時から始まって、3時半くらいまで講義が続く、実習の時間に食い込むということもたびたびでした。スライドのみで講義する先生も多い中で、小澤先生が黒板に描かれる模式図は洗練されていて、独特の曲線美があったと思います。

その後、同級生が第一解剖学講座の英語の抄読会に参加していたこともあり、教室に入りました。夏にセミナー合宿では松本歯科大学にお世話になり、穂高でのテニス、上高地

03年には大学院歯学独立研究科の認可を受けることができました。そして、学長・大学院歯学独立研究科長として、本学の研究・教育・診療体制の発展に全力で尽くされました。

小澤先生は、歯や骨など硬組織の石灰化・発生・再生に関する電子顕微鏡による超微細形態学的・細胞化学的な研究を行い、硬組織微細形態学の発展に一生を捧げられました。特に、石灰化機構については「基質小胞学説」を提唱し、その機能と普遍性を形態学的に立証されました。

また、国際的にも高い評価を受けた骨代謝に関する多岐にわたる微細形態学研究は、臨床歯学・医学にも多大な貢献をされました。そして、多数の研究者・臨床医を育成し、門下生から10名を超える全国各地で活躍する教授を輩出しています。

このような小澤先生の多大な功績により、今までに日本電子顕微鏡学会賞・日本骨代謝学会賞・歯科基礎医学会賞・日本骨形態学会功労賞などの多くの学会賞、そして2015年には瑞

宝中綬章を受章されました。

小澤先生と私が初めてお会いしたのは、今から35年ほど前、小澤先生の東京医科歯科大学の同級生であった須田立雄先生（現日本学士院会員）の下での昭和歯科大学院生であった1988年です。昭和歯学部生化学の講義の中で「骨の形態学」について、迫力ある素晴らしい講義でした。顕微鏡写真スライドのフォーカスにとっても厳しく、スライド係の私は毎回冷汗ものでした。

小澤先生の下で大学院生として当時学ばれていた中村浩彰先生（本学教授・網塚憲生先生・北海道大学教授・池亀美華先生・岡山大学准教授・入江一元先生（北海道医療大学教授）との出会いもその頃です。

いつもとても温かい笑顔で皆に接し、クラシック音楽を愛でながら時には寂しがり屋の小澤先生、思い出は山ほどあります。これからも私たち教える子として松本歯科大学を守りください。

（歯学部 生化学講座 教授 宇田信之）

を楽しませていただいたこともあり、大学院時代にも「音楽は続けなさい」とアドバイスをいただきました。私が所属するアマチュアオーケストラの演奏会にもたびたび聴きにきていただきました。

小澤先生のご専門は電子顕微鏡による微細形態学で、顕微鏡写真には厳しく、学会発表の前日まで差し替える要求されることもありました。写真に現れる各研究者の個性は尊重されていたと思います。

電顕写真の美しさと解釈的確さで、多くの骨代謝研究者から信頼されており、昭和歯学部須田立雄先生を通じて宇田川先生と知り合いになったのもこの頃です。

また、小澤先生がクラシック

小澤先生がめざした、発信続ける大学院

大学院設立準備委員会委員長を務めた小澤英浩先生が、多くの人々と力を合わせて設置にこぎつけた大学院は今春、設置から20年を迎える。この間、歯科領域から生命科学に直結するさまざまな研究成果を発信。また数多くの優れた研究者や教育研究者を生み出し、地域に貢献する歯科医療人を輩出してきた。



HSCIのメルトン教授（中央）一行を案内する小澤先生（右）

に對しての情報発信が少なすぎるとのことです。これをぜひ克服したい。すなわち、歯科医学からつくり出された研究成果が、一般の生命科学に十分にコントリビュートできる情報源になることを願っていた。

小澤先生は、創立30周年記念誌において大学院開設について次のように述べている。「松本歯科大学から世界に向けての情報発信を行う。常に情報発信をし続けるということがとても大切なことです。口の中の出来事は当然生命科学に直結するわけでありますが、今まで言われていたのは、歯科医学から一般の生命科学（ライフサイエンス）

多くの研究が進展し成果が結実

松本歯科大学大学院を核とするチームのさまざまな研究活動に基づき、本学は2008年4月、米国・ハーバード幹細胞研究所（HSCI）と共同研究・学術協定を締結した。HSCIは、器官再生分野における世界のリーダーであり、『TIME』誌の「2008年世界で最も影響力のある100人」で当時の米国大統領、バラク・オバマ氏に次ぐ2位に選ばれた世界的研究者のダグラス・A・メルトン教授が科学所長を務める研究機関で、本学の取り組みが世界的にも一段と注目を集める契機となった。

授は「ハーバード幹細胞研究所の使命―糖尿病治療に向けた膵臓β細胞の作製」と題して大学院特別講演を行った。運動性ニューロンの退行疾患である筋萎縮性側索硬化症（ALS）とβ細胞の退行疾患である糖尿病について詳しく解説し、本学の研究者を大いに刺激。講演後、「松本歯科大学とは公平かつ開放的に意見やアイデアの交換し、さらに一層の研究成果が得られることを期待している」と、本学との学術交流への情熱を語っていた。



研究成果を記者発表する小林教授ら

また2010年3月には、松本歯科大学大学院を核とする現歯学部長の宇田川信之教授らの研究チームが、信州大学医学部附属病院先端細胞治療センターと連携、ヒトの骨髄液から培養した骨髄間葉系幹細胞を用いた骨再生を成功させた。2012年には、総合歯科医学研究所の小林泰浩教授と口腔生化学講座の上原俊介講師が、破骨細胞内のタンパク質「プロテインキナーゼN3（PKN3）」が、破骨細胞の骨吸収を促進する役割を持っていることを解明した。

このように、小澤先生が目指した大学院は多くの研究成果を発信し続けている。

大学院設置から発足までの歩み

2001年	10月1日	大学院設置準備室設置
	11月1日	2001年度大学院設置準備委員会
	14日	第1回大学院設置準備委員会
	12月5日	第4回大学院設置準備委員会
2002年	1月22日	第7回大学院設置準備委員会
	2月21日	文部科学省との第1回設置関係書類打ち合わせ
	4月3日	文部科学省との第1回法人関係書類打ち合わせ
	5月1日	第16回大学院設置準備委員会
	6月24日	松本歯科大学大学院設置認可申請書を文部科学省へ提出
	7月18日	文部科学省が大学設置・学校法人審議会へ諮問
	9月17日	第22回大学院設置準備委員会
	12月11日	文部科学省に大学設置・学校法人審議会が答申
	19日	文部科学大臣より設置認可
2003年	2月6日	大学院入学選抜試験（第1次募集）
	12日	同合格者発表
	3月26日	大学院入学選抜試験（第2次募集）
	28日	同合格者発表
	4月10日	松本歯科大学大学院入学式

恩師に感謝を伝え飛躍を誓う

笑顔があふれる卒業謝恩祝賀会

2022年度卒業謝恩祝賀会が1月30日(月)、図書館エントランスホールで開かれた。卒業証書・学位記授与式に出席後の歯学部卒業生や大学院修了生、保護者、本学の役員・教職員など約200人が集い、恩師に感謝を伝え、仲間を互いに労い、思い出を語り合った。

校友会・蒼穹会主催による卒業謝恩祝賀会は、第46回卒業準備委員会委員長の長尾将平君が、卒業試験、歯科医師国家試験、卒業式と息つく暇もなく走り続けた第6学年の後半の日々を振り返りながら、「必ず全員で国家試験

に合格しましょう」と呼びかけ、始まった。あいさつに立った矢ヶ崎雅理理事長は「皆さん本当に卒業おめでとう」と祝福。「健康に気を付けて、たくさん本を読み、4月までの2カ月をむだに



大須賀直人学年主任と卒業を喜び飛躍を誓う謝恩祝賀会の参加者たち



立食形式で和やかに歓談

ながら「幸せな6年間でした」教員の支えに感謝。「歯科医師になったら、自分の頑張ってきたことは一度クリアにしてゼロから頑張っていきたい」と決意を述べた。石川君は「ここからがスタート。1年目が大事だといわれるので、まず国家試験の疲れを癒して英気を養い、精一杯頑張っていきたい」とあいさつした。

在校生によるアトラクションでは、金銅教授のオルガン伴奏に合わせて第2学年の佐々木はりなさんがフルートを演奏。ボイスパーカッションを披露した第3学



田口君の指揮によりフルート演奏や合唱で祝福する在校生

また、金銅教授と植野裕司大学院生が心を込めて準備した、思い出の写真を音楽にのせて次々と大写しにするスライドショーもあり、卒業生たちを大いに喜ばせ、笑いと涙を誘った。

第5学年・臨床実地試験を実施

診療参加型臨床実習で身につけた能力を評価

第5学年・臨床実施試験(CPX) 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-Clinical Clerkship Performance Examination (Post-CC PX))が1月19日(木)に行われた。

Post-CC PX (CPX) は、歯学部卒業生が診療参加型臨床実習を通じて身につけた臨床能力を測り、歯科医師としても資質を備えていることを確認するために実施される。主に態度を中心に基本的な資質を確認する。全国共通の評価基準を用いて、処置に必要な器材の準備などの6つの項目について個別に試験が実施された。医療系大学間共用試験実施評価機構派遣監督者として、鶴見大学の小川 匠先生、徳島大学の菅 俊行先生が来校され、口腔外科・抜糸、保存科

(修復)・PMTC、保存科(歯内)・根管治療、保存科(歯周)・SRP、補綴科・印象採得を見学した。正式実施となり今回で2回目のため、当日CPXを行った8名の学生(Student Dentist)は落ち着いて正確に清潔不潔、患者の安全に配慮して試験を実施した。その日のうちにフィードバックされ、全員合格であった。天候などの影響も懸念されたが、滞りなく終了した。

今回、そして臨床実習期間中CPXにご協力いただいた口腔外科、補綴科、保存科をはじめとする先生方、さまざまな準備をしていただいた学事室の方々に厚く御礼申し上げます。来年度も何卒宜しくお願いいたします。

(歯科保存学講座 教授 増田直子)

学業成績・学術文化活動等を称えて 歯学部卒業生14名が栄誉の受賞

2022年度松本歯科大学卒業証書並びに学位記授与式において、歯学部卒業生の学業成績優秀者に矢ヶ崎 康特別賞(1名)、矢ヶ崎 康賞(3名)、また文化活動等で顕著な活躍をした者に活動賞(4名)が贈られ、あわせて皆勤賞(3名)と精勤賞(9名)がそれぞれに贈られた。

表彰を受けたのは次の皆さん。

(敬称略)

長尾将平(委員長)

岩崎将和(副委員長)

石川幸佑、頼本優季(委員)

【矢ヶ崎 康特別賞】(歯学部学生表彰規定第4条 各学年において学業成績が平均点90点以上で、人物ともに優れた者)

長尾将平

【矢ヶ崎 康賞】(歯学部学生表彰規定第5条 在学期間の平均点80点以上の者)

岩崎将和

薄井理人

頼本優季

【活動賞】(歯学部学生表彰規定第8条 第46回卒業準備委員会)

青木宏樹、黄冠好、千野文子

【精勤賞】(歯学部学生表彰規定第9条 欠席日数が3日以内であった者)

石川幸佑、大藏太郎、高橋

知恭、手塚大貴、長尾将平、

中村美月、頼本優季、李

明軒、劉劭宣



表彰された矢ヶ崎 康特別賞、矢ヶ崎 康賞、活動賞、皆勤賞、精勤賞の皆さん

4人の首相に仕え、気づいた「リーダーと孤独」

内閣官房参事
松本歯科大学常務理事
特命教授 飯島 勲

今月号は『プレジデント』3月3日号「極上の孤独 時間の楽しみ方④」より、飯島先生の「総理大臣は日本「孤独な職」に関する記事を要約して紹介します。

内閣総理大臣という地位は、日本の政界では最高位のリーダーである。その座についた者には実行不可能なことがなくなるが、常に自らを律して、正しいと思える選択を続けなければならぬというプレッシャーがその両肩にのしかかる。

私は、小泉純一郎、安倍晋三、菅義偉、岸田文雄と4人の首相に仕えてきたが、彼らの姿を見ながら、首相とは日本の最高権力者であると同時に、この国で最も孤独な存在なのではないかと感じることもある。

岸田首相も昨年11月、森喜朗

生観から外れる」と説明している。リーダーと孤独は切っても切り離せないものだ。

その孤独とどう向き合うかはそれぞれ違うが、中曽根康弘元首相は毎週のように東京・谷中の禅寺「全生庵」で座禅を組んでいたという。読書家で知られていた橋本龍太郎元首相は、官邸から赤坂の書店まで自ら本を買いに出かけていたらしい。



バイデン大統領と笑顔で話らう岸田首相

私が首席秘書官として仕えた小泉純一郎元首相も、在任中を振り返って「孤独が必要なんです。孤独の時間がつくれるなかった自分を反省している」という言葉を残している。これもまた、首相という特別な存在が味わう孤独に向き合うために、一人で考える時間が欲しかったという意味ではないだろうか。

ただ、歴代首相の多くが「必要なんですよ」と言っている小泉元首相は、さすが「変人」と

いふべきか。

現在、日本で最も孤独な存在である岸田首相の気持ちを理解できる人がいるとしたら、それは世界各国の首脳だけだろう。岸田首相は外交の現場に出ると笑顔が増えるような気がしていたが、外務大臣の経験が長いという点に加えて、同じ苦勞を分かち合える相手との出会いが精神的に良い影響を与えているのかもしれない。

1月9日から15日の1週間、

岸田首相はフランス、イタリア、英国、カナダ、米国の5カ国を訪問した。G7の議長国の首相として、各国首脳との信頼関係を深めることを目的としていた。特に、イタリアのメローニ首相との会談・昼食会は地域・国際情勢をめぐり率直なやり取りで盛り上がり、予定を40分も上回る2時間20分にも及んだ。

この外遊のハイライトはやはり、米国のバイデン大統領との会談だ。どうも、岸田首相はバイデン大統領とは馬が合うようだ。2人ともパフォーマンスが得意ではないので、小泉とプツシユや、安倍とトランプのような派手なエピソードは出てこないが、ホワイトハウスの玄関でバイデン大統領が直々に迎えてくれるのは破格の対応だ。さらに、二国間の会談ではほとんど会食を行わないバイデン大統領が、岸田首相のためにワーキングランチを設定したというの

も格別だと思う。

同行した外務省の担当者によると、これまでの岸田首相の外国訪問の中で、今回のバイデン大統領との会談は首相自身が最も手応えを感じていたようだという。首相と大統領の個人的な信頼関係もさらに深まったようだ。国際社会で重要な位置を占める国のトップリーダーにしかわからない感情も共有できたのではないかな。

政治家以外のリーダーにも言えることだが、新しいチャレンジには「これをしていれば正解だ」というマニュアルがない。それは大きなプレッシャーであると同時に、一人で大きな責任を背負うというのはリーダーしか味わうことのできない特別な体験である。それに耐えられるかどうかは、リーダーの本質が孤独であると理解したうえで、その孤独に向き合えるかどうかにかかっている。

高大連携教育 松本第一高校と実践推進 今井校長と宇田川歯学部長らが懇談



宇田川歯学部長らと懇談する今井校長と小林事務局長（左から）

地域の高校との高大連携教育の取り組みを推進させようと、宇田川信之歯学部長や支援センターの原田寿久マネージャーなど本学関係者4人は2月13日（月）、松本市の松本第一高校を訪問した。今井秀幸校長と、同校を運営する学校法人外語学園の小林資典法人事務局長・松本大学予備校長と懇談し、来年度以降はより一層、連携を強めていくことで合意した。

今井校長は、同校が個性を尊重した教育を実践していることや、さまざまな分野で世界的にも華々しく活躍する卒業生を数多く輩出していることなどを紹介。本年度の卒業生は終始、新型コロナウイルス感染症を警戒しながらの高校生活となったものの、さまざまな工夫で行事も積極的に実施したエピソードなども語りながら、高大連携教育の実践に意欲を示した。

宇田川歯学部長は、同校の特色ある教育活動に高い関心を寄せ、「進路選択の参考にもしていただけたと思うのでぜひ生徒さんたちと本学へ」と来学を呼びかけた。今井校長は「実際にキャンパスに行つて、大学の先生方のお話を聴けることは高校生にとってたいへんよい刺激になる」と話し、前向きに検討していく考えを示した。

本学はここ数年、高大連携教育に一段と力を入れている。問い合わせは年々増えており、昨年は来学した東海大学附属諏訪高校の1年生22人に、大学教育体験として大学院教授による特別授業を実施するなどした。

客員教授の日比野、玉置両先生が講義 第2学年理工学講座

今年度より松本歯科大学理工学講座客員教授に就任されたお二人の先生の講義が、第2学年生を対象として月曜日の2時限目、実習館312教室においてそれぞれ行われた。

明海大学歯学部機能保存回復学講座・歯科生体材料学分野教授の日比野 靖先生は昨年10月31日（月）に「合着・接着用材

料」と題して、また朝日大学歯学部歯科理工学講座教授の玉置幸道先生は昨年12月12日（月）に「歯科鑄造と関連器材」と題して講義をされた。両先生とも90分間が短すぎるかのような、熱のこもった講義内容の展開であった。



講義をする日比野先生

日比野先生は、大学院生の頃より35年以上にわたり、合着材・接着材の研究に携わり、その研究開発を続けている筋金入りのエキスパートである。講義は48枚のスライドを用いての熱弁で、日比野先生の合着材・接着材研究への情熱が感じ取れた。玉置先生は落ち着いた語り口で、埋没材の膨張について石膏の硬化膨張の説明から始めて、わかりやすく解説した。続いて遠心鑄造までの流れも、随所に鑄造の講義を受けると必ず持つ疑問について、学生さん目線での解説を入れての説明であった。玉置先生の講義スキルが光る90分であった。

両先生の秀逸な講義を拝聴した学生さん達が、それに刺激を受け、一層勉学に励んでくれることを期待したい。

（理工学講座 准教授 洞澤功子）



講義をする玉置先生

併で、日比野先生の合着材・接着材研究への情熱が感じ取れた。玉置先生は落ち着いた語り口で、埋没材の膨張について石膏の硬化膨張の説明から始めて、わかりやすく解説した。続いて遠心鑄造までの流れも、随所に鑄造の講義を受けると必ず持つ疑問について、学生さん目線での解説を入れての説明であった。玉置先生の講義スキルが光る90分であった。

両先生の秀逸な講義を拝聴した学生さん達が、それに刺激を受け、一層勉学に励んでくれることを期待したい。

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授 笠原 浩

1961年に筆者は東京医科歯科大学を歯学部第9回生として卒業した。この時代のわが国では、歯科は明らかに格下の医学医療でしかなかった。

その9年前までは歯科の大学が皆無だったからである。それまでの医学医療で指導的な立場にあったのは、全て大学卒の医師であり、帝国大学などの医学士・医学博士から見れば、医学専門学校の医師などは下劣な「町医者」にすぎない存在だった。まして歯科医

専などは「職人養成所」だと見下げられていた。こうした状況は、大戦前の東京帝国大学医学部付属病院に端的に見ることができ。入院患者が増加するにつれて、彼らの歯科医療需要も無視できなくなっていたはずだが、東大医院（当時の名称）での歯科診療はほとんど存在しなかった。担当しようという医師がいなかったのだ。

外科主任の佐藤三吉教授が副手の石原久先生を口説いて、ドイツ留学を条件にしてようやく歯科を引き受けさせたという裏話

が伝えられている。彼が歯科学教室主任となって外来診療を開始されたのは1903年であった。当然のことながら当初は医学士に実際の歯科治療は困難であり、主として活躍したのは東京歯科や日本歯科医専出身のベテラン歯科医師たちであった。権威を誇る帝大病院では、学士でもない医専出身の医師が診療に当たることがありえない。唯一の例外が歯科であったが、

彼らには正規の医員の身分が与えられることはなく、医学士である医局員の許可を得て、その指示の下に診療するという形式を踏まされていた。アメリカの学位を得て後に日大歯科の創設者となる佐藤運雄先生でさえ「傍観生」というひどい肩書で診療をさせられていた。

この時代の歯科医師への蔑視に「眼医者・歯医者も医者ならば、チヨウチヨ・トンボも鳥のうち」という歌がある。帝大病院では「歯医者が医者だなんて生意気だ。やつらは『歯大工』と呼ぼう」とまで言われていた。初期の医師免許取得者の団体であった「明治医学会」が「歯科医は医師に非ず」と決めつけていた名残も存在していたのだろう。

それほどまでに歯科医療を軽視していた帝大病院だったが、1940年代になると風向きが変わってきた。

満州事変・支那事変・太平洋戦争で顎顔面の戦傷が急激に増加し、その治療医学が求められる時代となったのである。優秀な外科医たちが続々と顎顔面外科の分野に参入して来て、口腔外科とともに歯科の重要性が認識されるようになった。後に高等歯科医専から東京医科歯科大学への発展を主導される島峰徹先生や長尾優先生を始め、筆者の恩師の多くがこの時代に活躍された帝大卒の医学士であった。日本国の医学部も歯学部も全て新制大学となつてから70年以上が経過した。人口の高齢化が進行する中で、エッセンシャル・ケア・ワーカーとしての重要性が強く認識されるようになった。現代の歯科保健・医療の担い手たちには、60年前の歯科医師の対医師コンプレックスはもはや想像しがたいかも知れない。

60年前の歯科医療(2)

歯科矯正学講座・薄井陽平非常勤講師が開発
毛先を約 15 度にカットし磨きやすさを追求した
新しい歯ブラシ「O-SENSE」



薄井先生が開発した極薄ヘッドの歯ブラシ

本学24期生で歯科矯正学講座非常勤講師の薄井陽平先生（医療法人M&D歯科・矯正歯科 GOOD SMILE 理事長）が、磨きやすさを追求した歯ブラシ「オーラルドクター」「OSENSE」を監修・開発し、ヘルスケア製品などを手がけるエイコー株式会社より発売された。細部までしっかりと磨ける歯ブラシとして注目を集めている。

歯科医療のフィールドにおいて、歯ブラシは歯の汚れを物理的に取り除く必須アイテムであり、歯を守る最強の武器として広く認識されている。

このような歯ブラシの重要性に鑑み、これまで松本歯科大学は、年齢や口腔機能に配慮した歯ブラシの開発などに携わってきたが、今回新たに薄井先生が、磨きやすさを追求した歯ブラシ「OSENSE（オーセンス）」を開発した。

開発に至った経緯を薄井先生に尋ねたところ、「日々の診療において歯科衛生士や患者様から、磨き残しや奥歯の磨きづらさなど歯磨きに関する感想を聞き、心地よくブラッシングがで

きる歯ブラシの必要性を認識したため」と話している。

本製品の特徴は、植毛本数2400本の毛先が約15度に傾斜カットされたコンパクトなブラシヘッドである。

毛先に角度を付けることで歯の形にフィットし、最後方臼歯遠心面のブラッシングが容易

にできる。その他の歯の間や、奥歯の咬み合わせ部までしっかりと毛先が当たり、歯垢を除去する。さらに、柄は歯に理想の角度と加圧でブラッシングできるよう、またペンシルフィンガーで把持しやすい形状に設計されている。

実際に筆者が本製品を試したところ、通常ブラッシングで磨きづらい第二大臼歯遠心部を舌で触るとつるつるとしており、磨きやすさを実感した。



開発製品を持つ薄井先生（右）とポスターを掲げる三原先生

は唾液中の細菌が歯ブラシに付着後、最低5日間は抗菌作用を継続することを明らかにし、第32回甲信越北陸口腔保健研究学会で発表している。

今回開発した歯ブラシは研究を進める中で完成した第一段階の製品であるとし、薄井先生、三原先生は現在、歯ブラシの抗菌効果に着目して研究を進めており、抗菌作用を持つ歯ブラシの開発を行っている。

コロナ禍において、歯ブラシなど日常生活に必須の道具を紹介した感染からの防御は今後さらに重要であると考え、薄井先生と三原先生の今後の研究成果に期待したい。

（病院歯科矯正科 診療准教授 荒井敦

Student Dentist への登壇 第4学年共用試験CBT
2024年には改正歯科医師法で法的裏付けへ

2022年度の医療系大学

間共用試験CBT（Computer Based Testing）本試験が、1月31日（火）に本学キャンパスイン101教室において実施され、第4学年生80名が受験した。

共用試験は、歯科医師免許の

ない歯学生在、臨床実習におい

て歯科医行為を行うに当たっ

て、十分な能力を有することを

確認するために、事前に適切な

評価を受けることを目的に導

入された試験で、CBTとOSCE（Objective Structured Clinical Examination）の2つの試験がある。このうちCBTでは、コンピューターを用いて知識の総合的理解力が評価される。

試験は6ブロック（各ブロック1時間）から構成され、単純5肢択一問題、多選択肢2連問、順次解答2連問、順次解答4連問という形式の異なる問題が合計320問出題される。学生は長時間にわたる試験を緊張



PCをパーティションで囲った試験会場

（歯科保存学講座（歯内）教授 増田直子）

総合歯科医学研究所・増田裕次教授
日本咀嚼学会の理事長に就任

「生きた力」と定義している。具体的には、知は「確かな学力」、徳は「豊かな人間性」、体は「健康・体力」を指す。増田理事長は、「生きる力」には咀嚼が重要な役割を持つと考えている。健全な口腔機能を保ち、よく噛んで食べることを実践すること、食べ物に関する情報や知識（「確かな学力」）を意識するように、美味しく・楽しく食べることで、食べる人とのコミュニケーション（「豊かな人間性」）が図れる。そして、何より栄養バランスの取れた食事を摂ることで、健康な身体を保つ（「健康・体力」）ことができる。増田理事長は「良好な咀嚼機能を維持・向上することが国民の健康寿命延伸に役立つと信じ、活動していきます」と、抱負を語っている。



日本咀嚼学会の増田理事長

本学総合歯科医学研究所の増田裕次教授が特定非常勤活動法人日本咀嚼学会の理事長に就任した。日本咀嚼学会は、咀嚼に関する基礎的研究はもちろんのこと、歯科臨床、医学、栄養学、食品学などの専門家を交えて、咀嚼が健康にどのように関係しているかを研究、議論し、あわせて国民に広く咀嚼の意義を伝える役割を持つ。

近年、教育現場では「生きる力」を育むことが大切だと考えられ、新学習指導要領では、「生きる力」を「知・徳・体のバランス」を「知・徳・体のバ

専攻する学生であつて、当該学

生が臨床実習を開始する前に修

得すべき知識及び技能を具有し

ているかどうかを評価するため

に大学が共用する試験として厚

生労働省令で定めるものに合格

したものは、前条の規定にか

わらず、当該大学が行う臨床実

習において、歯科医師の指導監

督の下に、歯科医師として具有

すべき知識及び技能の修得のた

めに歯科医業（政令で定めるも

のを除く。次条において同じ。）

をすることができ。」との規定

が追加される。

これにより、歯学生の歯科医行為が法的に担保されることになる。さらに、2026年4月1日施行予定の改正では、第十条の一の規定に「（大学において歯学を専攻する学生が臨床

（C B T 小委員会委員長 平賀徹）

病院だより vol.48

マイクロスコープを使った
歯内治療のご案内
100年美味しく何でも食べる！

マイクロスコープを使った歯

内治療とは、今まで手探りだっ

た根管治療（歯根内部の治療）

に顕微鏡を用いて、「光」と「拡大」によって見えるようにして

行う治療法です。今まで見えな

かったものを見えるようにして

処置を行うため別次元の治療法

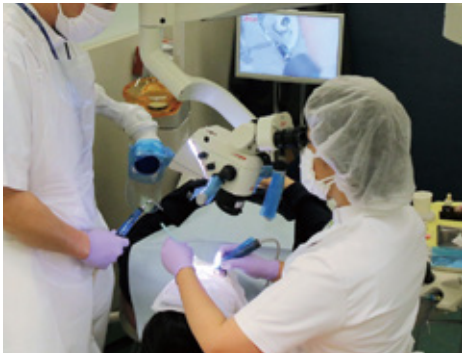
です。そして根管治療の成功率

を高めます。

歯を失いたくない方、自分の歯ですつと食べることを楽しむ

ために顕微鏡を用いた根管治療をおすすめします。根管のサイズはミクロン単位の狭く暗い空間です。その根管を精密に削って洗浄し、細菌のいない空間に近づけるのがマイクロスコープ歯内治療です。根管は身体の内部分とつながっています。細菌に汚染されたり病変が広がらないように顕微鏡で拡大し、より正確に治療します。根管治療はビルの基礎工事と同じです。歯を保存するためには大変重要な基礎工事です。

根管は大変複雑で、一人一人異なります。根管の中で増殖した細菌を無菌化することは大変難しいです。根管治療中も唾液中の細菌が入らないようにラバーダム防湿を行います。ゴムのマスクのようなものです。ラバーダム防湿は根管治療ではとても重要で大切です。根管治療のプロセスは、



マイクロスコープを使った歯内治療

齶蝕になった部分を削り取って歯髄（歯の中の神経）のあるところまで穴をあけます。そして歯髄を除去し、汚染された内容物を取り除きます。歯髄腔とそれにつながる根管の壁を少し削りながら全体を綺麗に清掃します。その後、根管を隙間なく充填剤で満たします。歯が今後長く機能するための基礎工事がこれで終了したことになります。根管治療の成功率は100%

根管は大変複雑で、一人一人異なります。根管の中で増殖した細菌を無菌化することは大変難しいです。根管治療中も唾液中の細菌が入らないようにラバーダム防湿を行います。ゴムのマスクのようなものです。ラバーダム防湿は根管治療ではとても重要で大切です。根管治療のプロセスは、

マイクロスコープ歯内治療の

ことはお気軽に松本歯科大学

保存科（歯内）へ0263・

51・2377）にお問い合わせ

ください。

Alumni News

松本歯科大学校友会

岡山県支部

「改定のあった保険請求について」 社会保険部の検討委員 大嶋淳先生が講演

の評価を引き上げる点や、かかりつけ歯科医機能の充実に向けは、地域における連携体制にかかる要件等を見直しなど細かな説明がありました。

また、歯科訪問診療の実態を踏まえた対応や口腔機能低下症の評価、歯科診療所と病院の機能分化・連携の強化の増点の説明、全身の健康にもつながる歯周病の安定期治療および重症化予防治療の推進、歯科衛生士等による訪問歯科衛生指導の実施時に、歯科医師が情報通信機器を用いて活用した場合の評価、ライフステージに応じた口腔機



保険請求について講演する大嶋先生

校友会岡山県支部は昨年6月11日（土）、支部総会後に会員の先生方に向けて、本年4月に大きく改定のあった保険請求についての講習会を社会保険部の検討委員である26期の大嶋淳先生から行われました。

この度のポイントは、歯科外来診療における院内感染防止対策を推進し、新感染症にも適切に対応できる体制を確保する観点から、「初診料」と「再診料」

本学拠点に日本骨免疫学会冬季学術集会 WINTER SCHOOL

総合歯科医学研究所 石田昌義講師の発表 優秀演題に

1月31日（火）から2月3日（金）、第7回日本骨免疫学会冬季学術集会 WINTER SCHOOL が開催された。

日本骨免疫学会は、高柳広教授（東京大学大学院医学研究科免疫学）により、骨と免疫の境界領域を扱う新しい学会として発足され、日本における骨免疫学の発展に貢献する学会である。この日本骨免疫学会の発足前から、東京大学との骨代謝研究に関する学術交流のため、松本歯科大学を拠点にスキーを楽しむながらの研究が小林泰浩教授（本学総合歯科医学研究所）の企画によって永年にわたり開催されてきた。

7回目を迎える WINTER SCHOOL は、軽井沢から斑尾高原に会場を移し、白銀の世界の中で免疫学や細胞生物学における世界のトップランナーの先生方の特別講演が行われ、活発な討論を行うことが出来た。今回、BONE シンポジウムのシンポジストとして、宇田川信之教授（生化学講座）の骨吸収と骨形成のカップリング機構についての講演でスタートし、本学からも多くの発表が行われた。

一般演題として、石田昌義講師（総合歯科医学研究所）は「老化間葉系細胞は OXN を分泌し骨芽細胞分化を抑制する」について発表した。

能管理の推進拡大などの変更、金属逆ザヤ問題に対しての代替材料による歯冠修復物の評価の説明などがありました。

この度の点数の変更だけでなく、届出の有無によって算定で

大学院セミナー 徳島大学大学院・鈴木善貴先生が講演 睡眠時ブラキシズムの生理学的特性について

1月13日（金）、徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野 講師 鈴木善貴先生を講師にお迎えし大学院セミナーを開催した。

鈴木先生が一貫して研究を続け、臨床にも従事して来られた睡眠時ブラキシズム（SB）について「睡眠時ブラキシズムの生理学的特性とマネジメント」と題して講演された。

睡眠時ブラキシズムは、歯の咬耗やアブフラクション、補綴装置の破損・脱離、歯周病の増悪、顎関節症や緊張性頭痛などさまざまな有害性があると

きるものや、算定の仕方の違い等で色々複雑な決まりが増えてますが、大嶋先生から分かりやすく説明をいただき、有意義に開催することができました。

（21期生 樋口将）

考えられている。リズム性に活動する Rhythmic Masticatory muscle Activity (RMMA) は、睡眠中に大脳や交感神経系の賦活に伴って生じる覚醒反応であるが、この中枢性の咀嚼筋活動はその的となる咬合には左右されず、不規則な顎運動としてアウトプットされている可能性がある。その発症・増悪因子を探ることで、対処法が異なることを理解してほしいと話された。

オクルーザルスプリント（ナイトガード）を装着するマネジメントの方法が、一般的であると考えがちであるが、決して S



学術交流後も高柳教授（左から3番目）を囲み交流する参加者たち

の培養上清は、非老化 ST2 細胞の骨芽細胞分化を阻害したことから、老化 ST2 細胞が、骨芽細胞分化を抑制する液性因子を分泌していることを示唆した。

そこで、骨芽細胞分化に関与する Wnt/ β -catenin シグナル阻害因子の遺伝子発現を網羅的に解析したところ、老化 ST2 細胞において DKK1 (Dickkopf-1) 発現が有意に増加していることを明らかにした。加えて、老化 ST2 細胞は非老化 ST2 細胞よりも核が肥大化していることに着目し、核膜崩壊によって自己 DNA が放出され、GASping シグナルを介して TNF α 及び DKK1 発現が誘導されたことを示唆した。

石田講師の発表は優秀演題に選出され、受賞講演では多くの先生方から質問があり、活発な質疑応答を交わすことができた。今後益々の研究の発展を期待したい。

（総合歯科医学研究所 助教 岩本莉奈）



講演に訪れた鈴木先生

まずは根本治療（原因除去療法）を考えることが大切であると話を結ばれた。

「質問は随時受け付ける」とおっしゃられ、講演中にも聴衆から質問が寄せられ、それらに丁寧に答えながら、お話を進められた。非常に親近感の感じられるセミナーであり、参加者全員が有意義に過ごせるものとなった。

（総合歯科医学研究所 教授 増田裕次）

歯科衛生士の加藤那奈さん、宮尾琴音さん 小児歯科学雑誌に症例報告論文掲載

小児歯科では、特殊な症例や全身麻酔下で対応した症例は担当衛生士が継続的に管理しているが、歯科衛生士の加藤那奈さん、宮尾琴音さんが携わっている2症例が日本小児歯科学雑誌60巻3号（2022）に掲載された。

加藤那奈さんが対応した「下顎小臼歯部に過剰歯がみられた

を分泌していることを示唆した。

1例」は、初診時に乳臼歯部に歯髄腔に達する齲蝕がみられ、エックス線画像で下顎右側小臼歯の歯冠上部に過剰歯様硬組織を認めた症例である。初診時は後継永久歯の歯冠が形成段階であり、まずは臼歯部の齲蝕治療を優先し、担当歯科衛生士による定期的な管理を実施し、小臼歯の発育を待つ乳臼歯の交換期に全身麻酔下で過剰歯の抜去を行った報告である。

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook



掲載誌を手にする加藤さん（左）と宮尾さん

（小児歯科学講座 教授 大須賀直人）

小児歯科学雑誌は、小児歯科学会が認定衛生士を取得しているが、宮尾琴音さんは来年度の認定歯科衛生士の取得を目指し、特殊な症例に積極的に携わりスキルアップを目指している。大学病院小児歯科の歯科衛生士としてさらなる活躍に期待したい。

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般選抜（Ⅲ期）

※共通テスト利用選抜（Ⅲ期）

※共通テスト利用選抜の、本学個別試験はありません。

●試験日 3月16日（木）

●出願期間 2月27日（月）～ 3月13日（月）

●試験場 本学・東京・大阪

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp

3月行事予定

5日（日）
第32回歯科衛生士国家試験

6日（月）～ 7日（火）
定期試験（衛生学第2学年）

7日（火）
衛生学卒業証書授与式

16日（木）
第116回歯科医師国家試験

一般選抜（Ⅲ期）
合格発表

共通テスト利用選抜（Ⅲ期）
合格発表

20日（月）
一般選抜（Ⅲ期）
共通テスト利用選抜（Ⅲ期）
合格発表

22日（水）
発表会（大学院）

24日（金）
第32回歯科衛生士国家試験
合格発表

